



取材：2026年2月6日



(有)アート銘板工業  
(右) 相田 光子 氏  
(左) 真澄 氏

## この街で輝く 女性経営者

電化製品などのメーカー名や製造番号を記載するために使われている「銘板」。

印刷されたシールだと思っていたので、製法を聞いてビックリしました！

それを支える専門技術は、今や調布で唯一に…。

技術を守り続け、用途に応じた素材の選定と高度な加工力を強みに、一点からの受注もしているそうです。

実際に見本なども見せてもらいながら、お2人でご対応くださいました！



(有)アート銘板工業

アルマイト印刷、スクリーン印刷、オフセット印刷、シール印刷。  
印刷に関する事なら何でもアート銘板工業までご相談下さい。

デザイン図案から完成まで、  
当社一貫システムで製品を提供します。

182-0013 調布市深大寺南町3-7-1  
TEL：042-487-1251





## 村野広報委員長

今日はよろしくお願ひします。  
外（事務所入り口）に掛けられている法人会の垂れ幕、歴史を感じますね。初めて見ました。



## 真澄さん

そうなんです。  
あれは、父が支部の会計を長く務めていた縁で掲げているもので、もう何十年もそのままなんです。  
光子さん

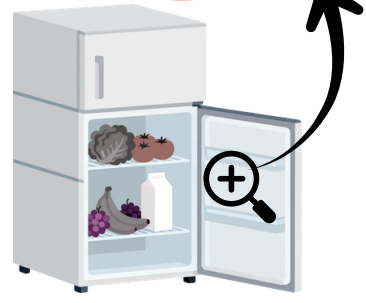
主人が亡くなって、少し活動が途絶えていた時期もあったんですが、最近また娘がセミナーに参加したのできつかけに、また法人会村野も顕著番を立て頂いています。

これからどうぞよろしくお願ひします。

今回は「女性経営者」という切り口でお話を伺いに来たのですが、ホームページを拝見して、お仕事の内容にとってもワクワクしました。

## 光子さん

基本的には「銘板」です。テレビや機械の裏側に貼ってある、型番や製造年が書いてあるプレートです。この銘板がないと製品として出荷できないんですよ。



## 光子さん

特に「アルマイト印刷」という特殊な手法を得意としているのですが、調布では弊社だけになります、残っているのは。

他にも普通の紙やシールなどの印刷、シルクスクリン印刷という手段に出来上がったものへの印刷などもしています。

アルミ・ステンレス・真鍮など素材や色などは、お客様の用途・要望に合わせてやっております。

## 村野広報委員長

調布で唯一、残られている会社なんです。

他の会社さんはコロナの影響などで辞められたとかなんでしょうか？

## 光子さん

コロナというよりは後継者問題とかが多いようですね。  
そしてこのアルマイトというのはアルミを加工したもののなんです、水で冷やしたりその下水の処理をしたりするので、場所（広さ）も必要になるんですよ。

それに夏などは、埃が飛ばないよう閉めているので、とても暑くなります。ですが、汗が一滴落ちてしまふとダメになってしまい、また作り直しになってしまふので、エアコンなども入れていて大変です。  
エアコンも、普通につけてしまふとシートなどが風で飛んだり埃が舞ったりしてしまうので、天井に（空気ダクトを）タコのようにして、室外機だけを外に設置することで対策しています。  
そういうことで、新しく始めるのは結構難しい業務かもしれません。



工場の天井にある風送り用ダクト

村野広報委員長

そうなのですね。(アート銘板さんの会社がある)この辺りは、結構住宅が多いので、今日こちらへ来てみて意外だったんです。

光子さん

今だとこの場所で(工場を建てること)はできないと思いますが、主人と始めた当初は大丈夫でした。ですがやはり住宅街なので、下水の処理はしっかりやらなければいけません。定期的に市からの検査があります。

他に引っ越した方がいいのかなとも思いますが、下水設備を整えるのも、建設当時でもかなりの金額だったので、今だとんでもない金額になると思います。

真澄さん

アルマイト加工というのが、アルミの表面に膜を作るものなのですが、お風呂のように水を張った場所にアルミ板と電極を入れて、電気分解させる。その後も印刷する際には途中で洗ったりもするので、水は結構使います。

村野広報委員長

アルマイト印刷というのは、具体的にどういう感じなんでしょうか？

真澄さん

作り方ですか？

まず、お客様から頂いたデザインや作ったデータをもとに版下を作り、それをフィルムにします。

真澄さん

それから、アルミの板にアルマイトという、先ほど言ったような耐久性を上げるための膜を作って表面を保護する処理をします。

そのあとに、感光乳剤という光に反応する液剤を塗り、フィルムを焼き付けて感光させ、現像機に通します。

そして色を入れて、最後は封孔処理という、表面の微細な孔を塞ぐ処理をして、製品化します。

色を入れるのも、塗るといよりは、アルミに刺青をするようなイメージでしょうか。

凹凸のあるアルマイトエッチングという方法もあります。

村野広報委員長

では字の部分が出っ張っているものは、字の部分を出っ張らせているわけじゃなくて、その周りを削っているんですね。

真澄さん

そうなんです。



村野広報委員長

これは色が消えない、などの特徴があるんでしょうか？

光子さん

素材によっては、太陽などの紫外線に弱くて自然に消えていってしまうものもあります。そういうものは屋内で使うもの、主に製造銘板と言って、製造番号や業者さんの名前が書いてあるようなものとして使います。

屋外で使うものだと、もう少し耐久性を上げた加工をしたものやステンレスを使うなど、用途に合わせて素材を選びます。



## 防衛省認定工場

昭和51年2月資格取得  
航空機等の銘板類のアルマイト酸化皮膜処理の認定を受ける  
現在は3年毎の関連会社による監査にて各種検査規定に合格

真澄さん

ちなみに以前、ミニクーパーが好きな方で集まった同好会で、毎年やっているイベントに合わせて作っていたこともありませう。その方たちは、毎年色を変えて作られていたんですよ。

そういう風に、お客様が本当に作りたいもの、といったニーズに合わせていろいろ作っています。

村野広報委員長

お客様からのニーズに合わせて、素材や色、製造法など、様々な用途に合わせたものを提供されているんですね。

ホームページの方に防衛省認定があると記載があったのですが、そういう大所から求められるのは、どういう経緯があるんでしょうか。

真澄さん

その認定は、弊社単独ということではなく、防衛省と取引がある、別の会社との共同認定ということかたちになります。

その会社とは結構前からお付き合いになりまして、もう五〇年ほどの関係になります。

真澄さん

その会社には、いろいろな防衛省関係のお仕事が入るのですが、その中のアルマイト印刷部分を弊社で引き受けています。

防衛省の仕事を直接的に受けるとなると、一枚の注文からでも書類がすごいんです。

申請書などの各書類も多すぎて、我々にはついていけないです。それで直接引き受けるのは難しいなと。

その会社からは、他の会社への仕事もいろいろありますけど、アルマイトに関しては、弊社が認定されているということなんです。

光子さん

以前は府中にある防衛省からも、(共同認定を受けている先の企業が)きちんと基準に合っているか、という監査がありました。

光子さん

今は、同じように共同認定を貰っている他の会社さんや、メーカーさんなどが来られてチェックされています。

真澄さん

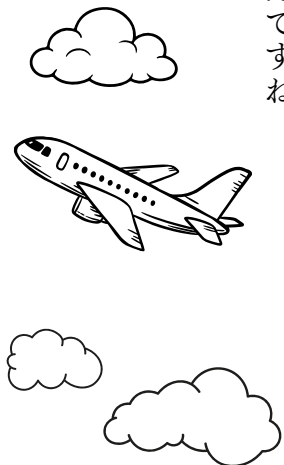
一応、防衛省認定ということ、こういったもの(依頼されて制作した銘板など)は、人にサンプルとしてあげてしまったり、表に出してしまったりすると大問題なので、管理はきちんとして、外に漏れないようにしています。

以前は、そこ(調布)のJAXAさんの入口を入ったところに、小型の飛行機があつて、そこに弊社で作った銘板がいっぱい貼ってあつたんですよ。

紙のように柔らかい特殊なアルミ銘板を(飛行機などの)部品に巻き付けてあり、万が一飛行機が墜落してしまつて炎上した場合なども、紙とは違って製造番号やメーカーが分かるからです。

村野広報委員長

巻きつけるような柔らかいものもあるんですね。





## 村野広報委員長

例えばなのですが、こういうものを作るのに、一つからでも作れるものなんでしょうか？  
何個ぐらいたないとダメなのかなどあれば教えてください。

## 真澄さん

一個からでも作ります。

例えばですが、ラーメンを一人前作るのも十人前作るのも、多少の時間の差はあっても、必ずラーメンができるまでの過程には、一定の時間がありますよね。

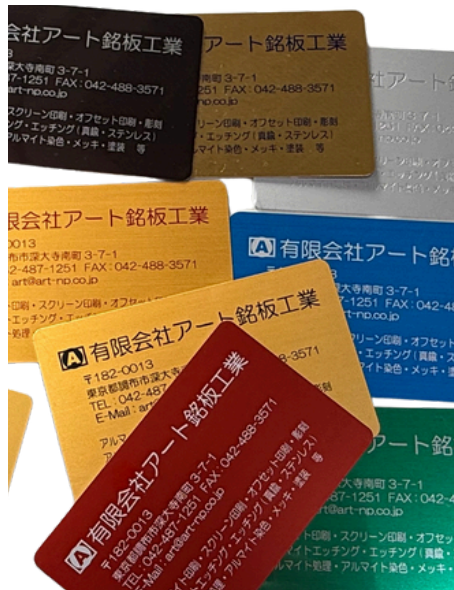
使う時間や素材が違って、そういったベースの金額は変わらないので、どうしても一つだと割高にはなってしまうのですが、看板などは一枚しか要らないことも多いですね。

## 村野広報委員長

看板などの結構大きなものまでできるんですか？

## 光子さん

ある程度の大きさのものまで作れます。



## 村野広報委員長

辞められる工場さんが多く、調布ではもうアート銘板さんだけというのですが、他の印刷技術に取って代わられているということもあるんでしょうか。

## 光子さん

それもありませんね。

バブルの後、景気が低迷していた時に、いろいろな業種の皆さんが泣いていた時代があったと思うんです。その中で、やはり畳まざるを得ない状況になったところがたくさんありました。

そういったところで、外注先がなくなってしまった、ご自分のところで作れなくなったから他のところを探そう、ということ弊社に來られる方もいました。

ただ、昔はシールを印刷するのにも、全部（外注に）出さないとできなかつたものが、今では家庭でもできますでしょうか？

なので普通のシール印刷などは少なくなつてはいます。

それでも昔からのお付き合いのある所をはじめ、先ほどのように新たな外注先を探している会社さんなどが声をかけてくださって、やっつけていております。

## 村野広報委員長

今は自宅でも会社でも、ある程度のもので印刷できるようになっていますよね。

## 村野広報委員長

今後の課題などはあったりするんでしょうか？

## 真澄さん

弊社に限らず、製造業さんは皆さんそれぞれ考えているのではと思うのですが、技術はあるけれども自社製品がない、というところでしょうか。人からの依頼で作っていて、自分のところの製品がないという製造業さんは多いと思うんです。

社内でも何か自社製品ができたなら、なという事はいつも思っていて、よく話しています。

## 村野広報委員長

受注して作ることがお仕事のことで、それを継続していくのももちろん大事ですが、そういう悩みもありますね。



## 村野広報委員長

ちなみに法人会の活動も色々やって下さっているようですが、他に地域と何か関わってされていることはありますか？

## 真澄さん

法人会はもうずっと入らせて頂いているんですが、あとは商工会さんとかですね。

それから、創業者である私の父がこの地元で生まれ育った人だったので、地元のつながりというところも結構あったりします。

私は法人会ですが、兄は消防団活動や自治会活動など、そういった地域貢献のような活動を結構しています。消防団の方はもう卒業しましたけれども、自治会の方で地域のお祭りや踊りなどの主催側として、いろいろ音楽を流したり、櫓を作ったり片付けたりと、そういったことをしています。

## 村野広報委員長

(地元だと)ついて回りますよね。私も散々やりました。お祭りもやって、消防団もやって。

私の会社は白糸台なんですけど、あの界限は、やっぱりお神輿もまだあったりするんです。

## 真澄さん

府中さんは、やはりそういう(お祭りなど)の活動が多いですよ。それで仕事が回っているような感じがします。

## 村野広報委員長

私の場合は酒屋なので、そういうつながりも多かったりします  
真澄さん

やはりお祭りがあるところには

## 村野広報委員長

そうですね。お祭りがある地域は地元の酒屋さんも生き残っているんです。

問屋という仕事もやはり絶滅危惧種のような仕事で、二十三区からこっちは、もう問屋はうちし  
真澄さん状態になっています。

## 村野広報委員長

一緒にですね。

コロナの後から思うんですけど、でも、一時期社会が分断されて、その中で何が出来るだろうという意識が皆さん芽生えている気がします。

弊社では、取引先の製造ラインが止まってしまえば仕事にならない部分はあったんですけども、製造ライン自体は止まらなかったものであまり影響がありませんでした。

ですので、出社時刻をずらすなどの工夫をしながら、普段と変わらず活動できていたので、社会の

## 真澄さん

やはり人と人とのつながりだったり、協力し助け合う、助け合いの精神というのがすごく芽生えたんじゃないかなというのを感じます。

## 村野広報委員長

お仕事の方でも、そういったつながりを感じたりというのもあるんですか。

## 光子さん

それもあります。私自身は、父がずっと活動をやってきたから、という理由で法人会で活動しているんですが、参加させていただいていると、皆さん口をそろえて「やっぱり横のつながりって大事だね」とおっしゃいます。私も本当にその通りだなと思います。



真澄さん

何か困った時に相談できる足がかりが分断されてしまうと、自分の中で解決しなければいけないし、本当にどうしたらいいのか分からない、という状況になってしまいます。

けれども、同業はもちろん、別のつながりの方たちとの話し合いの中で、問題解決につながったり、相談できたりすると、心強い気持ちになれる。そういったことで、将来こうしていかうかというビジョンが見えたり、勇気ややる気をもらったりすることが多いのかなと思います。

それこそ、仲良くさせて頂いている（調布第3支部）支部長のあき電器さんとか。

村野広報委員長

そうですね、いざという時に相談できる人がいるというのはありがたいですね。

真澄さん

皆さん、ご自分の仕事においてだけではなく、いろいろな横のつながりがありますよね。そうすると、誰か少し困った案件があった時に、マッチングではないですが「それだったら、自分の知っているあそこの○さんが出るんじゃないか」とか、そういうネットワークが強化される。そこでやはりまた強くなり、人とのつながりができたりして、いなと思っています。

光子さん

（真澄さんに）いろいろ仕込んでやってください。

（法人会で再活動して）まだ一年も経たないくらいです。主人が亡くなってから少しブランクがあつて。他の営業をしていた者が（法人会活動）やってくれていました。田舎に帰ってしまつて……その後がなかなか。

村野広報委員長

今回このような（訪問インタビューの）機会を貰えてよかったです。あとで工場を拝見させてもらうことはできますか？

光子さん

もちろん、どうぞ。

もうずっとやっているのでもあまり綺麗じゃないですけど。

薬品なども使うので、どうしても汚れてしまつたりして。

こういう薬品を使う人はたちは、特別な健康診断があつて、それも全部提出しています。

村野広報委員長

新しく入つてこられる方というのは、やっぱり化学系の方が多いんですか。

光子さん

そうですね。

こういう仕事が珍しいからやってみようかという人もいますし、それで何日か来てみて「ちよつと合わないから」という人もいます。



村野広報委員長

なかなか新しい人が入ってくれない、と。

光子さん

難しいですね、これは。

数年前に、同じような業界にいた人が入ってくれたので、それから色々変わりましたが、なかなかそういう人ばかりでもないです。

村野広報委員長

印刷と言つてもいろんな手法があるわけなんですよね。

光子さん

そうですね。弊社はアルマイト印刷が多いですが、オフセット印刷という機械を作つてシールなども作ることができます。最初はアルマイトだけでしたが。

紙やシールの印刷が主な会社などもありますので、経験者というのでもなかなか難しいところですよ。





真澄さん

話しは変わるのでありますが、名刺（村野広報委員長の法人会用）の、このパンダは法人会のキャラクターなんですか？ パンダのゼイゼイと宇宙人ネングー？



村野広報委員長

これは数年前に法人会の青年部会で、小学校高学年向けの租税教育アニメを作ったんですが、そのキャラクターです。あ、このパンダをアルマイト印刷して、ステッカーみたいにするのもいいですね。

真澄さん

そうですね、その時はぜひうちで作ってください。(笑) 前にこういうのを頼まれて作成したときには、こだわりの強い方で、やり直しがとても多くて、苦労したことがありました。

村野広報委員長

そのやり直しの回数とかで、料金に影響することはしないんですか？

真澄さん

(修正回数での割増など) そういのは、意外となかったりします。

真澄さん

なので（引き受けてみて）やり直しがすごく多くて大変だとか、あとは不良率が多いなど、正直なところ全然お金にならなかった、ということもあります。

村野広報委員長

素材とかデザインとかでも変わるの、引き受けてみないとそのあたりは。分からないです。

真澄さん

地の色（色を付けない部分）のところ、小さな傷が入ってしまったり、ピンホールと言いますが、色がうまく入らなくて白い点が出てしまったり、色むらが出来てしまったり、ですね。

村野広報委員長

均一に色を入れるというのは難しいんですね。



真澄さん

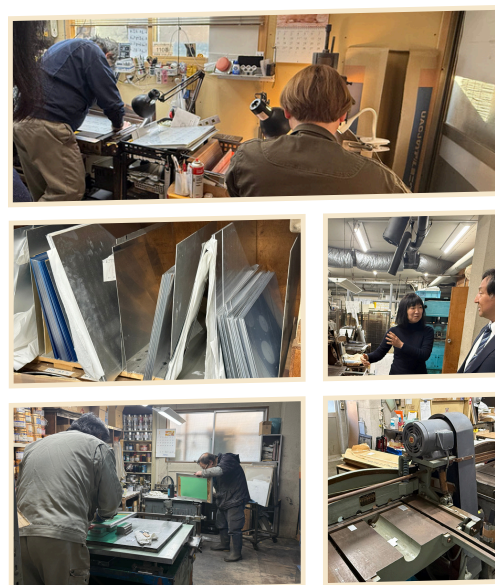
見本を兼ねた名刺みたいになってるので、どうぞもらってください。要らなかつたら定規してもらっていいので。(笑)

村野広報委員長

いいんですか、ありがとうございます。

真澄さん

じゃあ工場見ていけますか。よろしくお願いします。



村野広報委員長

今日は本当にありがとうございました。

光子さん

真澄さん

気を付けてお帰り下さい。ありがとうございました。

